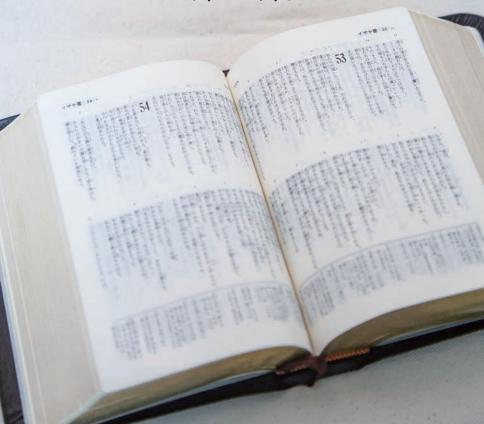
私たちと聖書

We and the Bible

第3集



私たちと聖書 (第三集)

はじめに

が聖書に影響されました。その結果、私たちの身近なものに聖書の影響があります。 聖書はおよそ千九百年前に完成して以来、様々な言語に翻訳されて世界中で読み継がれています。多くの人々

本書では、私たちの身近な様々なものに潜む聖書の影響についてご紹介します。そして、聖書が私たちにとっ

て大切なメッセージを伝えていることをお知らせします。

一二月までの間に連載されたものを電子書籍用として一冊にまとめたものです。そのため、各テーマが一話完 なお、本書は伝道出版社で毎月発行している「みちしるべ」誌において、二○一四年九月から二○一七年

まま残して構成しました。この本が読まれた方にとって、少しでも聖書を理解する助けとなることを切に願っ 結の形式となっております。 ページ順に読むのも良いですが、興味のあるテーマを選んで読むこともできるよう、今回はこの形式をその

二〇二〇年 五月

ております。

小林一茶の句・・	橘曙覧の独楽吟・	御大切・・・・・	走れメロス・・・	徒然草(その3)	徒然草(その2)	徒然草(その1)	芭蕉の病中吟・・	蜻蛉日記・・・・	更級日記・・・・	
•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	
•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	次
•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	
•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	
•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	
•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	
•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	
•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	
•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	
•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	
•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	
•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	
•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	
•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	
22	20	18	16	14	12	10	8	6	4	

●菅原孝標女の後悔

あり、兄は学者、叔母は『蜻蛉日記』を書いた藤原道綱母です。そうした文学的空気の中で育った彼女は源氏 この更級日記には作者の少女時代から晩年に至るまでの約40年間が綴られています。作者は菅原道真の子孫で 『更級日記』という作品をご存知でしょうか。平安時代中期に書かれ、作者は菅原孝標女(むすめ)といいます。

物語を読みふけり、物語の世界に憧れていました。

うつつを抜かして、仏道修行を怠ったためではないか、と。そうした老いの悲哀の中で、 しかし、夫は単身赴任で地方へ行き、後に病死します。子どもたちは成人した後、巣立っていきました。 母との離別を経験します。彼女は内親王(帝の娘)に仕え、30歳を過ぎてから結婚し、子どもも生まれました。 老年での孤独の中で、作者は後悔します。自分がこのように不幸せな境遇に至ったのは、少女時代に物語に そんな作者に、現実の厳しさは容赦なく降りかかります。彼女は姉や乳母との死別、彼女が慣れ親しんだ継 更級日記は幕を閉じ

●老いの寂しさ

人にとって「老い」は「死」とともに避けることのできない悲しみです。聖書の中にも「老い」の悲しみを

捉えたものがあります。「あなたの若い日に、あなたの創造者を覚えよ。わざわいの日が来ないうちに、また、 ない」年月とは老年のことなのです。 「何の喜びもない。」と言う年月が近づく前に。」(伝道者の書12章1節)と記されています。その「何の喜びも

神経、「金の器」は頭蓋骨、「水がめ」は心臓、「滑車」は血の循環のことだと聞いたことがあります。 器は打ち砕かれ、水がめは泉のかたわらで砕かれ、滑車が井戸のそばでこわされる」(3~6節)。これらは人 なくなって仕事をやめ、窓からながめている女の目は暗くなる。……こうしてついに、銀のひもは切れ、金の の老いの姿を喩えたものだと言われています。「家を守る男」とは腕や足、「粉ひき女」は歯、「銀のひも」は 聖書はこう続きます。「その日には、家を守る者は震え、力のある男たちは身をかがめ、粉ひき女たちは少

次第に足腰も弱ってきます。そして、必ず人は死を迎えるのです。だからこそ、伝道者ソロモンは語ります。「結 である」(13節)。私たちはこのみことばを深く心に留めるべきです。 局のところ、もうすべてが聞かされていることだ。神を恐れよ。神の命令を守れ。これが人間にとってすべて 若い時には想像もできなかったことが老いを迎えた自分に起こります。目が見えづらくなり、耳が遠くなり、

●老いの中の光

さい。私はなおも、あなたの力を次の世代に、あなたの大能のわざを、後に来るすべての者に告げ知らせます」 聖書には別の老いの姿も記されています。「年老いて、しらがになっていても、神よ、私を捨てないでくだ

神様とともに歩んだ者は、たとえ老いても神様への信頼と使命を持ち続けます。あなたはいかがですか。

●藤原道綱母の『蜻蛉日記』

優れた歌人として有名でした。 平安時代には日記文学を書いた女性が多く出ました。『蜻蛉日記』を書いた藤原道綱母もその一人です。彼女は

済まない道綱母にとって、それは悲しく辛いことでした。彼女はその悲しみを紛らわすために、自分の思いを文章 道綱という子も生まれました。しかし、好色な兼家は別の女性を愛人にします。兼家の愛を独占しなければ気が らず、道綱母の美貌と才能を買って、自分の二番目の妻としました。兼家と結婚して、道綱母は幸せな時を過ごし、 に表現しました。『蜻蛉日記』は夫の愛を求めてもそれを得られない道綱母の悲しみが綴られている作品です。 そこを気に入ったのが、のちに摂関政治を確立した藤原兼家でした。彼は時姫という妻がすでにいたにもかかわ

し七人目の夫

けになり、こう言われました。 かたわらに腰を下ろしておられました。一人のサマリヤの女が水を汲みに来ました。イエス様は彼女に声をお掛 聖書にも、男性との愛を求め続けた女性が出てきます。イエス様がサマリヤを通られた時、旅の疲れで井戸の

「この水を飲む者はだれでも、また渇きます。しかし、わたしが与える水を飲む者はだれでも、決して渇くこ

の福音書4章13~14節 とがありません。わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠のいのちへの水がわき出ます。」(ヨハネ

うか。」(同29節 せました。「来て、見てください。私のしたこと全部を私に言った人がいるのです。この方がキリストなのでしょ れました。その時、女はこの方こそ救い主だと確信したのです。彼女は水がめをそこにおいて、町の人々に知ら とが知らされるはずだと言った時、イエス様は「あなたと話しているこのわたしがそれです。」(同26節)と言わ いることを告げます。イエス様は、彼女が男性の愛を求め、しかし満足できないでいることを知っておられたのです。 その水を欲しがった女に対して、イエス様は彼女が五人の男性と次々に結婚し、今は六人目の男性と暮らして 自分の過去を見通された女は、さらにイエス様と問答をします。そして、キリストが来られたら、すべてのこ

主と信じた時、彼女の心の中からは「永遠のいのちへの水」が湧き出たのです。 男性の愛を求め続けても満足できなかった彼女は、ついに真の満足を得ることができました。イエス様を救い

●主を恐れる女

あなたに「いのちへの水」を与えるのはイエス様だけです。 パスカルは「人の心の中には、神様以外には埋められない穴がある」と言いました。あなたに真の満足を与え あなたの心は渇いておられるでしょうか。心の満足を求め続け、それでも満足できないのではないでしょうか。

ます。女性だけに限りません。主を恐れることこそ、あなたが真に満足のいく人生を送るただ一つの秘訣です。 「麗しさはいつわり。美しさはむなしい。しかし、主を恐れる女はほめたたえられる。」(箴言31章30節)

芭蕉の病中吟

●芭蕉の病中吟

結局、病は癒えず、芭蕉は息を引き取りました。 そして、病の床でさらに推敲を重ね、「なほかけ廻る夢心」や「枯野を廻るゆめ心」とすべきか思案したそうです。 が、そこで病に倒れました。彼は「病中吟」と称して「旅に病んで夢は枯野をかけ廻る」という句を詠みました。 ら各地を旅し、4つの紀行文を書きました。そして50歳の時、芭蕉は江戸を出発して大阪に立ち寄ったのです 皆さんは「俳聖」と呼ばれた松尾芭蕉をご存知でしょう。芭蕉は江戸時代前期に活躍しました。彼は40歳か

芭蕉の後半生は旅でした。その旅の途中に病を得て、 体の自由がきかない中で、 思いは遥か遠くまで及んで

●病の解決者

いたのでしょう。

時に最初に入った者の病気が癒されました。そこで、大勢の病人や体の不自由な人が池の周りに伏せっていま う。イエス様がエルサレムに上られた時、ベテスダという池に行かれました。その池では御使いが水を動かす 人は病気になると、健康のありがたみを痛感します。特に、病で体の自由がきかなくなるとなおさらでしょ

した。その中に38年間も病気にかかっている人がいました。

その間ずっと体を自由に動かすことができなかったのです。彼の人生は苦難の連続でした。 3年間とは何と長い時間でしょう。この人が20代で病気にかかったとしたら、今は60歳前後でしょう。

する、また人生の苦難に対する真の解決者です。 たばかりでなく、38年間も体を動かせずにいた人のリハビリ期間を一瞬で終わらせました。イエス様は病に対 ん。そこから長い時間をかけてリハビリする必要があります。しかし、イエス様は病気をたちどころに癒され い」(8節)と言われました。「すると、その人はすぐに直って、床を取り上げて歩き出した」(9節)のです。 ないために、水の中に入りたくても入れないことを訴えると、イエス様は「起きて、床を取り上げて歩きなさ その彼に対してイエス様は「よくなりたいか」(ヨハネ5章6節)と声を掛けました。彼が体の自由がきか この奇跡は驚異的です。人は、例えば骨折をした後に骨がつながったとしても、すぐに歩くことはできませ

●病に沈んだ人

逆に医者を求めた」(歴代誌第二・16章12節)と記されています。アサ王は亡くなるまでの2年間、両足の重 サ王は両足の病気にかかってしまいました。「ところが、その病の中でさえ、彼は主を求めることをしないで、 陥りました。彼のしたことに警告した予見者に対して、アサ王は怒って足かせをかけました。そのためか、ア い病気に苦しんだのです。病はいつあなたを襲うかわかりません。その人生の危機に際して、 アサというイスラエルの王様がいました。彼は神様に対して忠実に歩みましたが、最晩年になって不信仰に 病気ならば医者に頼るのも良いでしょう。しかし、人生の苦難に対する真の解決者はイエス様です。 あなたは誰

この御方に頼る人生を歩みませんか。

徒然草(その1)

▶「先達はあらまほしきことなり」

長短の文章から成ります。その中の一つに、ある僧の話があります。 日本古典の三大随筆の一つに『徒然草』があります。鎌倉時代末期に兼好法師が書いたもので、二四四段の

けを見て、一番大切な本殿は参拝しませんでした。 ところで、他の参拝者がみな山の上に登っていくけれど、神社へ参るのが本意だと思って、山までは見ません 足して帰ってきました。そして仲間の僧に、「長年の願を果たしました。聞いていた以上に素晴らしかったです。 残りに思っていました。そこで思い立って一人で出掛け、極楽寺や高良神社などを参拝して、これだけだと満 でした」と得意そうに言いました。実は、石清水八幡宮の本殿は山の上にあるのです。この僧は付属の神社だ 仁和寺という寺に一人の僧がいました。この人は年寄りになるまで石清水八幡宮を参拝したことがなく、心

簡単なことでも、指導者というのは必要なのだ」という意味です。 この話を聞いた兼好法師は「少しのことにも、先達はあらまほしきことなり」と書き記しました。「こんな

●「読んでいることが、わかりますか。」

聖書は神の言葉であり、福音は神の愛のメッセージです。それは誰でも聞くことができますが、一般的に広

アの宦官のところに遣わされました。この宦官は女王に仕えていた高官でしたが、心に悩みを持っていたらし く知られているわけではありません。そこで、福音を分かりやすく教えてくれる人が欠かせません。 イエス様の弟子たちは様々な場所へ福音伝道に出掛けていきました。その中でピリポという弟子はエチオピ

く、エルサレムからの帰途に馬車の中で聖書を読んでいました。

とを伝えました。それで宦官はイエス様を信じ、バプテスマを受けて喜びながら帰ることができたのです。 わからなかったのです。ピリポは、それがイエス様であることを教え、聖書の他の箇所も用いてイエス様のこ 箇所を示しました。それはイザヤ書53章で、イエス様の十字架の預言でした。宦官は、これは誰のことなのか かけました。宦官は「導く人がなければ、どうしてわかりましょう。」(同31節)と答えて、読んでいた聖書の そこにピリポは遣わされ、「あなたは、読んでいることが、わかりますか。」(使徒の働き8章30節)と話し

●「たたきなさい。そうすれば開かれます。」

読んでいてもわかりにくいところはあります。そんな時、お住まいの近くにあるキリスト集会に行ってみては ただくことで、より深く理解できた経験があります。 いかがでしょうか。私も最初は一人で聖書を読んでいましたが、集会に行って信者の方から聖書を説明してい あなたが聖書をお持ちになり、お読みになることはとても素晴らしいことです。同時に、一人だけで聖書を

をたたいて、永遠のいのちへの扉を開かれますよう、お勧めします。 「たたきなさい。そうすれば開かれます。」(マタイの福音書7章7節) とイエス様は教えました。集会の門

●徒然草の初心者論

兼好法師が書いた『徒然草』には考えさせられる話がいくつかあります。その一つが「ある人、弓射ること

を習ふに」という書き出しの段です。

こる。最初から1本目で決めよう、と思うべきだ」とアドバイスしたのです。それを聞いた兼好法師は、弟子 師匠は「初心者は2本の矢を持ってはいけない。後の矢があると安心して、最初の矢をいい加減に扱う心が起 万事にわたるべし(この戒めはすべてのことに当てはまることだ)」と感心したというのです。 が師匠の前で1本目を疎かに扱うはずはないが、本人も意識しない怠け心が師匠には見えるもので、「この戒め、 ある人が弓道の師匠について弓を習い始めました。その人は矢を2本持って的に向かいました。それを見た

つまり兼好法師は、一念発起したその瞬間に実行に移すことは何と難しいことかと述べました。これは誰も

●「死人たちに彼らの中の死人たちを葬らせなさい」

が同意するところではないでしょうか。

悟」を促された、と覚えることができます。イエス様はある人に「わたしについて来なさい。」(ルカの福音書 イエス様はご自身に従おうとした者たちへ、時に厳しい言葉を言われました。それは、イエス様に従う者に「覚

死人たち」、つまりまだ信じていない人たちに任せなさい、と言われました。これは、家族の葬儀を無視して 「あなたの父母を敬え」という律法の教えを認めておられますので。 よいというのではなく、イエス様に従う者の覚悟を教えられたのだと考えられます。別の箇所で、イエス様は の死人たちを葬らせなさい。あなたは出て行って、神の国を言い広めなさい。」(同6節)と言われました。 9章59節)と言われました。その人が自分の父を葬らせて欲しいと願うと、イエス様は「死人たちに彼らの中 自分の家族が亡くなった時、私たちは葬儀に手を尽くすでしょう。しかし、イエス様はそれを「彼らの中の

によって救われました。滅ぶべき者が永遠に生きる者となったのです。この180度の転換の偉大さは人間の 私たちが「救われる」のは、実に偉大なことです。神様の前で罪人であった私たちがイエス様の十字架の死

要です。イエス様を自分の「主」と認め、この方のために歩んでいく覚悟です。聖霊は、そうした私たちを助 めてはならない、引き返すはずのない道です。ですから、私たちはイエス様について行くときに「覚悟」が必 この救いを受けた者は、イエス様に従って神様を喜ばせる者として歩むべきです。それは、決して途中でや

●最初に求めるもの

いはなむけの言葉でしょうか。あなたを愛するイエス様に、今すぐ従う決意を持たれるよう、お勧めします。 て与えられます。」(マタイの福音書6章33節)と教えられました。イエス様に従おうとする者への、何と力強 イエス様は 「神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべ

徒然草(その3)

●「あやまちすな。心して降りよ。」

やまちすな。心して降りよ。(落ちるなよ。気をつけて降りろ。)」と言ったのです。 切らせていたとき、弟子が高い所にいたときは何も言わなくて、家の軒ぐらいの高さまで降りて来たときに「あ 兼好法師の書いた『徒然草』には、ある木登り名人の話があります。この人が弟子に指図して高い木の枝を

自分で気をつけるから注意しません。しかし、失敗はもう安心だと思うところで起こすものです」と言いました。 兼好法師はこの言葉にとても感心しました。「あやしき下臈(身分の低い者)なれども、聖人の戒めにかなへり」 このことを不思議に思った兼好に対して名人は、「目がくらみ、枝が折れそうな危なっかしいところでは、

愚かな金持ち

と言って、誉めたたえています。

け入れなくてもいいか、と考えておられるのではないでしょうか。もしそうならば、兼好法師の話はある示唆 を与えます。「まだ大丈夫」と思うとき、あなたは永遠の失敗をしてしまうかもしれません。 あなたは聖書の福音をお聞きになったことがあるでしょうか。その福音を素晴らしいと思うものの、まだ受

イエス様はある金持ちのたとえ話をされました。その金持ちは勤勉に、自分の畑をよく管理していたのでしょ

自分の人生に対して「もう大丈夫」と思ったのでしょう。 ぱい物がためられた。さあ、安心して、食べて、飲んで、楽しめ。」(ルカの福音書11章19節)と言いました。 倉を取り壊してもっと大きいものを建てようと考えました。そして、「たましいよ。これから先何年分もいっ う。ある時に豊作が訪れました。たくさん取れた作物が自分の倉に入りきらないことを知った彼は、今までの

ら取り去られる。そうしたら、おまえが用意した物は、いったいだれのものになるのか。」(同20節 しかし、そんな安心を覆す神様のことばが彼にありました。「愚か者。おまえのたましいは、今夜おまえか

金持ちは「もう大丈夫」と安心している時に、大きな失敗をしてしまいました。しかもそれは、決して取り

返すことのできない永遠の失敗でした。

語ですが、「いつやるの? 今でしょ!」は救いにこそ当てはまります。 そうです。あなたは、自分はまだ若いし、まだまだ大丈夫だとお思いかもしれません。しかし、少々古い流行 ローマのことわざに「『まだ大丈夫』という道は、『遅かった!』という都に続いている」というものがある

●十字架上の犯罪人

ました。イエス様は「あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます。」(ルカの福音書23章49節)と言 われました。犯罪人はギリギリで間に合ったのです。 ぬことしか待っていないその時に、イエス様の隣の一人の犯罪人は自分の罪を悔い改め、イエス様に願い求め イエス様が十字架にかけられた時、二人の犯罪人も同時にかけられました。十字架にかけられて、もはや死

あなたはご自身の死の時まで待つのですか? どうか、今すぐ信じられますように。

走れメロス

●太宰治『走れメロス』

す。しかし、踏みとどまったメロスは体力の限界に達するほどに走り続け、日没直前の、まさにセリヌンティウ 方も多いでしょう。メロスがシラクサの暴君ディオニス王に捕らえられて処刑されることになったとき、 疑おうとしたことを互いに詫び、彼らの真の友情を見た王は改心するのです。 スが処刑されようとする寸前に到着して、約束を果たしました。そして、メロスとセリヌンティウスは裏切ろう、 王の元に戻ろうとするのですが、川の氾濫や山賊の襲来などの妨害が入り、一度は王の元に戻るのを諦めかけま セリヌンティウスを身代わりにして猶予を願い、妹の結婚式に出席します。猶予期間である三日後の日没までに 太宰治の『走れメロス』は有名な作品です。中学校2年生の教科書にも載せられており、授業で読んだという 親友の

界だけのものなのでしょうか。 借金をしに行ったのですが、とうとう帰らなかった、というエピソードが残っています。美しい友情は物語の世 た。熱海での宿泊費と飲み屋への支払いを使い果たしてしまった太宰は、友人の檀一雄を人質にして他の友人に 友情の美しさを歌い上げた作品です。しかし、作者の太宰治自身はあまり友情に厚かったとは言えませんでし

●ダビデとヨナタンの友情

子ヨナタンはダビデと深い友情を結んでいました。「ヨナタンは、自分と同じほどにダビデを愛した。」(サムエル ダビデが王になる前の時、その並外れた活躍に嫉妬したサウル王から命を狙われます。しかし、サウル王の息 聖書にも美しい友情の話があります。そして、これは事実の出来事です。ダビデとヨナタンの友情です。

だとも言えます。しかし、ヨナタンはダビデのことを決してそうとは考えませんでした。 たりしました。サウルの王座を脅かす存在であるダビデは、次の王となるはずのヨナタンにとっても邪魔な存在 ヨナタンは父サウルに対してダビデのことを幾度も弁護したり、ダビデに命の危険が迫っていることを警告し

記第一・18章1節)と証言されています。

章26節)とダビデはヨナタンを称えたのです。 ヨナタンが戦死したとき、「あなたの私への愛は、女の愛にもまさって、すばらしかった。」(サムエル記第二1

●真の友

たに命じることをあなたがたが行なうなら、あなたがたはわたしの友です。」(ヨハネの福音書15章13、 もう一つ、素晴らしい友情の話があります。これも夢物語ではなく事実です。イエス様の、あなたに対する愛です。 「人がその友のためにいのちを捨てるという、これよりも大きな愛はだれも持っていません。わたしがあなたが

たしの友」だとイエス様は認めてくださいます。そして、イエス様はあなたのためにご自分のいのちを捨ててく イエス様の「命じること」、それはまず、あなたがイエス様を救い主と信じることです。その時、あなたは「わ

真の友を誰もが求めるでしょう。その方こそはイエス様なのです。

●宣教師たちが用いた「御大切」

という語は使うことができません。そこで彼らが考えたのが、「御大切」という語を充てることでした。神の愛を「デ 違った意味合いを持っていました。当時、「愛」「愛す」と言えば「愛執・愛着・愛欲・愛好」などの意味合いであり 様々な対訳本も出版しました。その際、困ったことが起きました。「愛」という言葉を使うことができなかったのです。 う宣教師たちの熱心さの表れだと思います。彼らは異国の地である日本において、神様を心から愛したのです。 ウスの御大切」、キリストの愛を「キリストの御大切」と表現したのです。これは、神様の愛を正確に伝えたいとい れる神の愛は、無私の愛です。そのニュアンスを損なうことなく日本人に伝えたいのですが、悪い意味合いを持つ「愛 自己本位な行為・感情に限られて使われていました。決して良い意味の言葉ではなかったのです。 もちろん、当時も「愛」という言葉はありました。しかし、それは今日の私たちが使っているものとはずいぶん 戦国時代、日本に初めてキリスト教が伝わった時、宣教師たちは福音を伝えるために日本語を勉強し、辞書を作り、 宣教師たちは困ってしまいました。神の愛は自己本位なものではありません。ギリシャ語で「アガペー」と表さ

残念ながら多くの人は自分に向けられている大きな愛に気付かないままでいるのです。それは「神様の愛」です。 「愛」は、人が誰でも欲するものでしょう。誰もが、人から愛されたい、自分を愛して欲しい、と願います。しかし、

神様は間違いなくあなたを愛しておられます。神様の愛はいくつかの事実で確認することができます。 「天の父は、悪い人にも良い人にも太陽を上らせ、正しい人にも正しくない人にも雨を降らせてくださるか

らです。」(マタイの福音書5章45節)

ません。それは、イエス様によれば、神様が全ての人を愛しておられる証拠です。 今朝も太陽が上ります。そして、雨が降ります。太陽が上らない人、雨がその上に降らない人など一人もい

への神様の愛は二千年前にすでにはっきりと示されているのです。 イエス様が十字架におかかりになったこと、この事実も神様が全ての人を愛しておられる証拠です。あなた 「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。」(ヨハネの福音書3章16節

●神様を愛する

愛に応えてこそ、この愛は「あなたへの永遠のいのち」という実を結ぶのです。 神様はあなたを愛しておられます。それは神様の「片思い」だと言っても良いでしょう。あなたがこの神様の 一愛」は素晴らしいものですが、その素晴らしさを味わうためには、愛を受け取らなければなりません。今、

書10章27節)とイエス様は教えました。宣教師たちはこの通りに生き抜きました。あなたはいかがですか。 「心を尽くし、思いを尽くし、力を尽くし、知性を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。」(ルカの福音

江戸末期の歌人 橘曙覧

す。明治時代になって、和歌の革新を追求した正岡子規は彼の歌を絶賛しました。 江戸時代末期に活躍した橘曙覧という人がいます。本居宣長の国学を学んだ人ですが、歌人としても有名で江戸時代末期に活躍した橘曙覧という人がいます。本居宣長の国学を学んだ人ですが、歌人としても有名で

彼の歌の中に、「独楽吟」という五十二首の連作があります。すべて「たのしみは」で始まる歌で、 その平

明さから親しまれています。いくつかご紹介しましょう。

たのしみは たのしみは 朝おきいでて 妻子むつまじく うちつどひ 頭ならべて 物をくふ時 昨日まで 無かりし花の 咲ける見る時

たのしみは たのしみは 三人の児ども すくすくと 大きくなれる 姿見る時 心をおかぬ 友どちと 笑ひかたりて 腹をよるとき

んな彼の清貧な生活の一端が、これらの歌からもうかがえます。 隠遁の生活を送りました。学問と歌を学び、妻子を門弟からの援助や寺子屋の月謝などで養っていました。そ 曙覧は商家の長男として生まれました。家業を継ごうとしましたが、 嫌気がさし、 家督を弟に譲って自らは

イエス様の楽しみ

旅の疲れで休んでおられたイエス様に弟子たちが食べ物を持って来たとき、イエス様はこう言われました。 たかもしれません。そんなイエス様にも楽しみにしていたことがあり、それは、神様の御心を行うことです。 ただ、人々が罪に苦しんでいる姿を日々見ておられたイエス様は、大きな口を開けて笑うことはなさらなかっ 神の御子であり、同時に完全な人間でもあるイエス様は、私たちと同じく豊かな感情を持った御方でした。 「わたしを遣わした方のみこころを行ない、そのみわざを成し遂げることが、わたしの食物です。」(ヨハネ

たりするためです。その一人一人に、イエス様は親身に対応しておられました。時には寝る間もなかったかも 様のところには多くの人々がいつもやってきていました。イエス様の教えを聞いたり、病気を癒やしてもらっ その食事をとることよりも神様の御心を行い、みわざを成し遂げることの方がより大切なことでした。イエス りになり、みわざを成し遂げられました。イエス様はそれらを喜んでなさったのです。 しれません。それでも、神様の御心を行うことがイエス様の楽しみでした。そして、最後には十字架におかか 先の橘曙覧の歌にも、家族が食事をすることの楽しみが歌われていましたが、しかし、イエス様にとっては、

人の喜び

びなさい。」(ピリピ人への手紙4章4節)と教えられているように、主にある喜びに満たされているからです。 様やイエス様との幸いな交わりの中にいます。だから「いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜 あなたには喜びがありますか?ぜひ、イエス様を信じられますように。 あなたの身近にいるクリスチャンは心に喜びを持っています。クリスチャンは信仰によって罪が赦され、神

▶「やせ蛙まけるな一茶これにあり」

時代に正岡子規によって紹介され、広く知られるようになりました。 江戸時代の俳諧師で、小林一茶という人がいます。彼は生きている間はあまり認められませんでしたが、明治

通る」「やれ打つな蠅が手をすり足をする」「我ときて遊べや親のない雀」などの句は彼のそうした視線をよく表 一茶の俳句は平明なものが多く、また、弱い者に対する温かい目が特徴です。「雀の子そこのけそこのけお馬が

自身を重ねているのかもしれません。いずれにせよ、弱者に注ぐ温かい目を感じさせます。 匹のメスをめぐって争う場面を見かけ、弱いやせ蛙を応援したものです。一茶自身も晩婚であり、あるいは自分 「やせ蛙まけるな一茶これにあり」もよく知られた一句です。これは「かわず合戦」という、蛙のオス同 土が一

●自然界の目に見えない営み

飛んできて、見渡せる電線にびっしり列をなして留まっています。黒々としたその姿を見ると不気味な感じがす 私の住んでいる街にはカラスが多くいます。松林が近くにあるせいか、夕方になるとどこからか群れをなして

るのを抑えることができません。

さることもできません。それでも彼らはちゃんと冬の季節をやり過ごし、春になるとまた電線に列をなすのです。 べ物がすぐに見つかるわけではありません。家庭のゴミも、最近はしっかり籠の中に入れられるので、それをあ そのカラスたちは、冬の間はどのようにして生きているのだろう、と不思議に思います。他の季節のように食

旧約聖書にヨブ記という書物があります。ヨブに対して、神様はこう教えられました。 「鳥の子が神に向かって鳴き叫び、食物がなくてさまようとき、鳥にえさを備えるのはだれか。」(ヨブ記38章41節)

などもちゃんとご存じであり、彼らを養っておられます。神様の目は、人間の目には届かない自然界の営みに対 しても行き届いた視線を送っておられます。 「それはわたしではないか」と神様はヨブにお答えになるのです。神様は私の知らないこともご存じです。しか 私が気にも留めないこと、カラスが冬場にどうやって食物を得るのか、雀がどうやって冬を越すのか、

●イエス様の目

げ入れました。みなは、あり余る中から投げ入れたのに、この女は、乏しい中から、あるだけを全部、生活費の 「まことに、あなたがたに告げます。この貧しいやもめは、献金箱に投げ入れていたどの人よりもたくさん投

全部を投げ入れたからです。」(マルコの福音書12章43~4節)

献金箱に投げ入れる金持ちたちに注がれている時、貧しいやもめのわずかな捧げ物、しかし彼女の神様に対する 弱者への温かいまなざしは、まさにイエス様にこそ当てはまります。イエス様の目は、人々の目が大金を宮の

厚い信頼を、決して見逃しませんでした。 あなたは神様にどのような思いを持っておられますか。あなたのその思いを、神様はちゃんとご存じなのです。



聖書はあなたに知恵を与えて、 キリスト・イエスに対する 信仰による救いを受けさせることができます。 - テモテ第二の手紙3章15節-

私たちと聖書(第3集)

2020年5月1日

著 者:峰本義明

編 集:みちしるべ編集室